

川に出かけるときの注意

肱川に行ってみよう

肱川に興味を持っている皆さん、川に行ってみましょう。

肱川水系には、本流の肱川をはじめ、河辺川、小田川、久米川、矢落川など 474 本もの支流があります。肱川は全国の川の中で 5 番目に支流が多い川です。このため、同じ川と言っても、それぞれに違ったようすを見せてくれます。まず、近くの川に行ってみましょう。

川に出かけるときには、右の 4 つのルール（決まり）を守りましょう。

川に出かけるときの 4 つのルール

1. 川に行く前に準備しよう
2. 川では危険な場所に注意しよう
3. 危ないときには避難しよう
4. 自分たちの川を大切にしよう

ルール 1

川に行く前に準備しよう

① 川のことを知ろう

家族や学校の先生、地域のお年寄りなどに、行こうと思う川の様子や昔の話などを聞いてみよう。どこがおもしろいか、どこが危ないかなどを教えてください。聞いてもらうことができます。



② 大人と一緒にいこう

子どもだけで川に行かないようにしましょう。川に行くときは大人と一緒にいきましょう。



③ 行き先を家族に知らせよう

川に出かけるときには、かならず家族に、いつ、どこへ、誰と、何をしに行くのかを知らせよう。



ルール 2

川では危険な場所に注意しよう

川で遊ぶうちに、どこが危ないか、どこが安全かを知ることができるでしょうが、下の場所は危ないので注意しよう。

主な危ない場所

<川岸>

- **コンクリートブロック**……コンクリートブロックの間にはさまったり、コンクリートが崩れたりする。
- **石張りの川岸**……特にぬれているときにはすべりやすい。
- **切り立った川岸**……特に雨の後などは崩れたり、落ちたりする。

大洲市肱川橋上流の高川原の川岸、すべり込むと危ない→



<川の中>

- **流れの速い所**……水深が浅くても、足をとられることがある。
- **水深の深い所**……特に川底が見えない所は危ない。
- **水のうずがある所**……急流や堰の下流などでは水がうず巻いていて、水から出にくくなる。
- **中州**……水かさが増えると、川岸に戻れなくなることがある。



川に出かけるときの注意

ルール3 危ないときには避難しよう

こんなときは危ないので、川から離れよう。

①雨が降り始めたとき

雨が降ると、急に川の水かさが増えたり、ぬれた岩やコンクリートの上でころんでけがをすることもがあるので、川から離れよう。



②川の水が急ににごり出したとき

川の水が急ににごりだしたり、木の枝やごみなどが流れてきたりするときには、上流で大きな洪水が起きていることがあるので、川から離れよう。



③雨がやんでいるのに川の水位が下がらないとき

雨がやんでいる、または雨が小ぶりになっているのに、川の水位が下がらない時には、上流で雨が降り続けていることがあるので、川から離れよう。



④ダムが放流するとき

ダムの水を放流するときは、急に川の水かさが増えるので、すぐに避難しよう。ダム放流の時には、約1分間のサイレンが繰り返し鳴ります。



ルール4 自分たちの川を大切にしよう

肱川は、この地域に住んでいる私たちの川です。少なくともこの3つのことは守ろう。

①ごみを捨てない

肱川は私たちの川です。皆さんは、自分の家の中をごみ捨て場にはしないでしょ。肱川を自分たちの川だと思えば、ごみを捨てたりはできないはず。ごみは持ち帰りましょう。

②植物や動物を大切にしよう

肱川には植物、鳥、魚、昆虫などたくさんの生き物がいます。たくさんの生き物がいることは川が豊かな証拠です。植物や動物を必要以上にとらないようにしましょう。

③釣り針や釣り糸は持ち帰ろう

釣りは楽しいものです。でも、釣り針や釣り糸を川や川岸に置き去りにしたままにすると、その釣り針や釣り糸で、魚や鳥が傷ついたり、からまって死んでしまうこともあります。持ち帰るようにしましょう。

